

でんさいネットの記録機関変更記録のサービス開始予定について

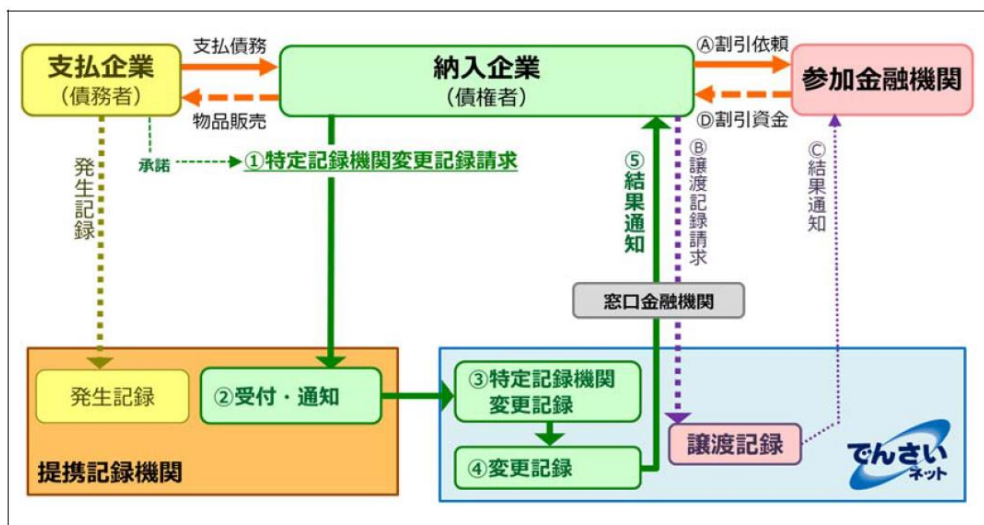
株式会社全銀電子債権ネットワーク（以下、「でんさいネット」と言います。）では、他の電子債権記録機関（以下、「提携記録機関」と言います。）と提携し、次のとおり記録機関変更記録のサービス開始を予定しております。

1. サービス開始予定日
令和元年7月8日（月）
2. サービスを開始する提携記録機関
 - ・みずほ電子債権記録株式会社
 - ・SMBC 電子債権記録株式会社

3. 記録機関変更記録のサービス内容

記録機関変更記録とは、提携記録機関に記録された電子記録債権をでんさいネットに移動するサービスです。概要は以下のとおりです。

《サービス機能概要図》

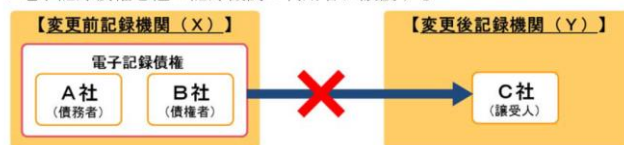


- ◆提携記録機関の電子記録債権の債権者（納入企業）が債務者（支払企業）の承諾を得て、提携記録機関に特定記録機関変更記録を請求いただくと、提携記録機関からでんさいネットに当該電子記録債権の内容等が通知され、でんさいネットで特定記録機関変更記録として当該電子記録債権の内容等を記録（変更）します【上記①～③】。
- ◆特定記録機関変更記録後、でんさいネットで当該電子記録債権に登録されている利用者情報（名称、決済口座情報等）および任意的記録事項（譲渡可能回数、口座間送金決済に関する定め等）を、でんさいネットの登録内容等に合わせるための変更記録※を行ったうえで、債権者および債務者に対して記録結果等を通知します【上記④・⑤】。
- ◆上記の特定記録機関変更記録および変更記録後、債権者（納入企業）は「でんさい」をでんさいネットの参加金融機関（当金庫）への譲渡記録等により、でんさいを資金化（割引等）することが可能となります【上記⑧～⑫】。

<留意事項>

- 1) 特定記録機関変更記録により、提携記録機関〈変更前記録機関〉の電子記録債権をでんさいネット〈変更後記録機関〉の利用者（参加金融機関等を含む）に直接譲渡することはできません（特定記録機関変更記録後に譲渡記録を行う必要があります）。

× 電子記録債権を他の記録機関の利用者に譲渡する



○ 電子記録債権を他の記録機関に記録（移動）する



- 2) 特定記録機関変更記録を請求するためには、債権者および債務者双方が、提携記録機関およびでんさいネット双方と、特定記録機関変更記録が利用可能な契約を締結しておく必要があります。
- 3) 次の事由に該当する場合は、特定記録機関変更記録を請求することはできません。
- ・債権者および債務者の決済口座（利用契約）のいずれかが、債権者請求方式による発生記録が請求できない場合
 - ・記録機関変更記録をすることができない場合
 - ・債権金額が日本円以外の通貨である場合
 - ・債権金額が1万円未満または100億円以上である場合
 - ・債務者または債権者が2人以上である場合
 - ・支払方法が分割払いである場合
 - ・発生記録に記録されている債権者以外の者が債権者である場合
 - ・発生記録に記録されている債務者以外の者が債務者である場合
 - ・銀行営業日以外の日が支払期日である場合
 - ・支払等記録、質権設定記録、分割記録、記録機関変更記録、信託の電子記録、強制執行等の電子記録がされている場合
 - ・債務者が債権者を発生記録請求ができない者として制限している場合
 - ・債権者および債務者のいずれかが、発生記録の請求を制限されている場合
 - ・提携記録機関が定める場合
- 4) 特定記録機関変更記録後のでんさいは、前頁「サービス機能概要図」④の変更記録後の内容（債権金額、支払期日、債務者・債権者情報等）で発生記録をした場合と同じ内容・様式で開示することができます。なお、特定記録機関変更記録および前頁「サービス機能概要図」④の変更記録の記録内容は、特例開示でのみ開示可能です。
- 5) 特定記録機関変更記録の利用に当たっては、当金庫が定める手数料をお支払いください。なお、当金庫とは別に、提携記録機関においても特定記録機関変更記録の利用料（手数料）を定めている場合があります。

以上